

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 生活 第9号

- 幼稚園，小学校，特別支援学校対象 -

平成20年5月発行

### 児童の気づきの質を高めるための指導の工夫

#### 1 はじめに

生活科の学習において、活動や探検の中で生まれる児童の気づきは、情緒的なものだけでなく、同時に知的なものでもある。教師はこのことを認識し、児童の気づきを児童自身が自覚できるようにしたり、高めたりしていくことが求められている。

しかしながら、学習活動が体験だけに終わっていたり、教師の指導の意図が明確でなかったりするなど、活動や体験を通して得られた児童の気づきを、質的に高める指導が十分とは言い難い状況が見られる。

また、平成20年1月17日の中央教育審議会答申に示された生活科の改善の具体的事項として、「(ア)自分の特徴や可能性に気づき、自らの成長についての認識を深めたり、気づきをもとに考えたりすることなどのように、児童の気づきを質的に高めるよう改善を図る。」とある。答申においても気づきの質を高めるための指導の改善が求められている。

そこで、本稿では、活動等から得られた児童の気づきの質を高めることを目指して、指導の工夫について述べる。

#### 2 「気づきの質を高める」とは

##### (1) 「気づき」とは

生活科でいう気づきとは、児童が自らの思いや願いをもって取り組んだ活動や体験を通して、人、社会、自然のことについて驚いたり、感動したり、不思議に思ったり、自ら考えたりして、実感を伴って得られた見方、考え方などのことである。これは、児童が見付けた事物や現象についての直感的な特徴付けやアイデア、比較や関係付けなどを行って得られた考え方を、それぞれの児童が自らの論理として進んで表現することを通して形成されていく。それらは、将来における科学的な思考や認識、社会的な認識、合理的な判断、そして美的、道徳的な判断の基礎にもなる。

ところが、児童はその気づきを自覚していないことが多く、生活科の目標の達成が不十分になりがちである。教師は、指導する意図を明確にもって体験や活動等を指導計画に位置付け、児童の気づきを意図的・計画的に取り上げ、価値付けや意味付けをしながら焦点化し、児童に

自覚させていくことが重要になってくる。

また、気付くことができた児童に、自分のよさにも気付かせることが、気付きの質を高めるためには必要である。

(2) 「気付きの質を高める」とは

次は、第1学年単元「あさがおをそだてよう」における授業の参観者が記録したものの一部である。教師のねらいは、あさがおをよりよく育てる方法に気付かせることにあった。

あさがおを教材とした1年生の生活科の授業の導入時のことである。突然、教師はフラフープを出し、腰の周りで回し始めた。子どもたちは何が始まるのかと目を輝かせ教師をじっと見つめていた。教師の真似をして何人かフラフープを回した後、「この輪の中に何人入れるかな。」と教師が問い掛けた。子どもたちは、予想人数を発表した。では、試してみようということになり、1人、2人…「ぎゅうぎゅうでもう入れない。動けないよ。」と言うまで子どもたちは入った。この活動後、動きにくいのはあさがおも同じではないかという事に子どもたちは気付いた。

この後、児童は話し合いを通して、あさがおを大きく育てるために必要なことに気付いていったのである。教師の指示ではなく、児童に「よりよく育てる方法に気付かせたい」という教師の確かなねらいがあったために、このような導入が生まれたのである。

つまり、気付きの質を高めるとは、児童が活動や体験の中で、比べたり、関係付けたりしながら、気付いたことを基に考え、次の活動へ生かしていくことがで

きるようにすることである。そのために、教師は、児童の思いや願いを的確に見取り、児童への適切な関わり方を工夫し、児童の活動を充実させることが大切になる。

3 「気付きの質を高める」ための指導の工夫

児童は対象と繰り返し関わる中で、比較等をしたり、児童相互や教師との対話などをしてしたりして、対象との関わりを深め、気付きの質を高めていく。この過程における教師の働き掛けが特に重要である。気付きの質を高める上で、大切にしたい教師の働き掛けについて、以下に述べる。

(1) 教師の言葉掛けの工夫

学習活動の中で児童の気付き等に対して、教師が理由を尋ねたり、共感したり、意図を確認したりする言葉掛けは、児童が無意識のうちに行っていた工夫や新たな気付きを自覚させるのに、大変重要な役割をもつ。したがって、教師は生活科や本時の目標を確実に把握し、児童の気付きの質を高めるための意図的な言葉掛けをしなければならない。基本的には以下のような言葉掛けが考えられる。

ア 共感する言葉掛け

「よくできたね。」、「よかったね。」

イ 価値に気付かせる言葉掛け

「よく・・・に気付いたね。」

「・・・が大事ということなんだね。」

ウ 活動や思いを整理し、認めたり、意味付けしたりする言葉掛け

「それはこんなことかな。そうであれば、こういうことだね。」

エ 児童の発言や活動・体験を基に，広げたり，深めたりする言葉掛け

「ここに さんが拾ってきたドングリがあります。このドングリでどんな遊びができるかな。」 など。

教師は児童の思いや願いを大切にすることと，ねらいとする学習内容に児童が気付くようにすることを心掛けて，共感的な言葉掛けをしたい。

#### (2) 学習の環境の工夫

生活科の学習においては，児童にとって身近で切実な課題を，児童の立場で解決していくのが基本となる。教師は児童が解決してみたいと思っていることや，夢や願いなどの実現の過程を通して，価値ある内容を獲得させていくように構想を練る必要がある。しかし，児童の思いや願いからだけでは，児童に獲得させるべき内容に迫ることができないこともある。よって，児童に獲得させるべき内容を確実に把握し，学習活動が自然に目指す方向へ向かうように，学習の環境を構成する工夫をしなければならない。

例えば，学習の動機付けになる資料等の提示，教師の話題提供，活動を豊かにするためのゲストティーチャー等の人的環境の充実，児童が思う存分活動できる場や材料等の物的環境の整備，時間の確保などの学習の環境の工夫である。

また，話し合いにおいては，児童が友達と気付きを共有したり，新たな気付きをもったりするような，児童相互の交流の場を設定する工夫も必要である。

#### (3) 表現活動の工夫

低学年の児童の発達特性として，行動することと，思考し，判断し，表現することは一体的に行われる傾向がある。したがって，活動や体験の楽しさや気付いたことを言葉や絵，動作，劇化などにより表現することは，児童自身が気付きを自覚することにつながる。そして，表現して他者に伝えることを通して，自分の気付きをより理解し，新たな気付きを生み出すことになる。また，表現したことにより，教師や友達から評価されるような経験を積み重ねることで，自信をもって意欲的に活動に取り組むようになる。つまり，多様な表現活動を繰り返し行うことは，児童の気付きの質を高めるためには欠かすことができないのである。したがって，生活科においても，児童自らが自分の思いを表現したくなるような表現活動を工夫することが必要である。

#### (4) 実践例

図1は，第2学年単元「わたしたちのまち大好き」の指導計画である。1学期の校区探検の経験を生かしながら，町の人に焦点を当て，児童と町の人との関わりから，町のよさに気付かせるという設定である。指導計画の特色としては，学習のまとめに発表会を位置付けたこと，児童にとっては新たな表現方法であるワークショップ形式を取り入れたことである。そして，どのような学習の環境を設定することが価値ある内容に迫れることか，また，児童が気付きを自覚するためには，どのような表現活動が必要かという視点で作成している。

小単元名	主な活動内容と意識の流れ	教師の具体的な働き掛け	< 気付きの質を高めるための指導の工夫 >
町のすてきをさがしに行こう	<p>1 1学期の探検や、夏に町でしたことを思い出す。(1時間)</p> <p>2 町を歩き、季節の移り変わりや町のすてきなどところを見付ける。(3時間)</p> <p> ・1学期の探検と違うところを見付けよう。 ・町でがんばっている人を探しに行こう。</p> <p>3 町の様子で気付いたことを発表し合う。(1時間)</p> <p> ・お店に秋のかざりがしてあったよ。 ・幼稚園から楽しく遊んでいるような元気な声が聞こえてきたよ。</p>	<p>1 学期の探検や夏休みの思い出を想起できるような作品や写真を提示し、自分の住む地域の様子にも目を向けさせる。</p> <p>「もう一度会ってみたい。」「話をしてみたい。」という児童の思いを大切にしながら、町の人に焦点を当てて、活動への具体的な意欲を高める。</p>	<p>既習経験を生かして、1学期の校区探検と比べ、町の様子を観察する視点を示し、活動の動機付けをする。 【学習の環境の工夫】</p> <p>児童各自の課題を焦点化するために、一回目の町探検を設定する。 【学習の環境の工夫】</p>
町の人となかよくなる	<p>1 もっとくわしく知りたいことや聞いてみたいことを決める。(1時間)</p> <p>2 グループごとに、探検の計画を立て、活動方法や準備について話し合う。(3時間)</p> <p> ・おすすめの品物を知りたいね。 ・うれしいことや大変なことを聞こう。</p> <p>3 店や施設の中を見たり、インタビューしたりして、町の人とかかわる。(4時間)</p> <p> ・お店の人しか入れないところを見せてもらった。 ・ばくもお客さんにあいさつしたよ。 ・たくさんの品物があってびっくりした。</p> <p>4 友達とかかわった人のことを教え合い、カードに書く。(1時間)</p>	<p>インタビューの仕方が分かり、聞いた内容や感想を簡単に記入できる便利手帳を活用させ、十分に練習する時間を設ける。</p> <p>お世話になる予定の店や施設などには、事前に連絡をとって、活動の趣旨を伝え、町の人々の迷惑にならないように配慮する。</p> <p>カードに書くことを通して、探検を振り返り、伝えたいことを焦点化できるようにする。</p>	<p>児童が自信をもってインタビューできるように練習の時間を確保する。 【表現活動の工夫】 【学習の環境の工夫】</p> <p>探検のねらいが達成できるように、訪問予定の店等と事前の打合せをする。 【学習の環境の工夫】</p> <p>カードに書くことで気付きを自覚し、友達と交流することで新たな気付きをもつことができるようにする。 【学習の環境の工夫】 【表現活動の工夫】</p>
町のすてきを教え合おう	<p>1 友達にどんなことを伝えたいか話し合う。(1時間)</p> <p> ・秋においしいくだものをみんなに教えたいな。</p> <p>2 体験したことをまとめ、発表の準備をする。(4時間)</p> <p> ・写真に、言葉を書くとわかりやすいかな。 ・ばくが話しているとき、実際にやってみる人がいるといいね。</p> <p>3 「まちのすてき」発表会をする。(2時間)</p> <p> ・お店の人がお客さんと笑顔でお話していました。 ・おいしそうなものを見やすく並べていました。</p> <p>4 町でやってみたいことや行ってみたいところを教え合う。(1時間)</p> <p> ・お父さんと公園に行ってサッカーしたいな。 ・ケーキやさんになって、ケーキを作りたい。</p>	<p>発表は3分程度のワークショップ形式で行い、発表順は、内容や方法を考慮して、あらかじめ決めておく。</p> <p>聞く側も質問したり感想を言ったりするようにして、発表する側と聞く側が互いに教え合う発表会になるようにする。</p> <p>児童が見つけたことや気付いたことにしっかり共感し、がんばりやよさを価値付け、児童が成就感を味わうようにする。</p> <p>ゲストティーチャーとのかかわりを通して、地域に愛着をもてるようになった自分に気付くことができるようにする。</p>	<p>ワークショップ形式を取り入れる。 【表現活動の工夫】</p> <p>児童相互の交流の場として発表会を設定する。自分で発表したり、友達の発表を聞いたり、感想を発表したりすることを通して、新たな気付きをもたせる。生まれた気付きを児童が自覚できるように、意図的に言葉掛けをする。 【学習の環境の工夫】 【表現活動の工夫】</p>

図1 第2学年 単元名「わたしのまち大好き」全22時間 (鹿児島市立武小学校単元指導計画を基に作成)

#### 4 おわりに

生活科は、児童の自立への基礎を養うことを目標としている。つまり、教科ではありながらも、中、高学年の総合的な学習の時間へとつながるものでもあり、探究的な学習の基盤をなすものである。よって、技

能はもちろん、学習に必要な意欲や考え方などの資質、能力も高めることが重要であるだけに、今後、児童の気付きの質を高める指導の工夫が一層求められる。

#### 【参考文献】

文部科学省『初等教育資料 No804』平成18年1月号  
(教職研修課)



